

香川県教育委員会事務局
保 健 体 育 課 長 殿

学 校 名 三 豊 市 立 豊 中 中 学 校
学 校 長 名 森 清 司

令和 2 年度 オリンピック・パラリンピック教育実施報告書

I 事業実施前の課題

- ・ オリンピック・パラリンピックの意義や歴史を知り、知識を身につけさせる。
- ・ オリンピック・パラリンピックが果たす役割について理解させる。
- ・ パラスポーツに興味を持たせる。

II 具体的な取組み

1 活動名(事前学習): オリンピック・パラリンピックについて知ろう。

- (1) 日 時: 令和 2 年 10 月 ~ 令和 2 年 11 月
- (2) 対象者: 全校生徒 276 名
- (3) 活動概要及び工夫点(保健体育の時間で実施)

体育理論でオリンピック・パラリンピックの歴史や関わりの深い人物、それが果たす役割などを学習した。パワーポイントで資料を作成し、オリンピズムやパラリンピックムーブメントなどをワークシートにまとめた。

(4) 活動の様子



【体育理論でオリンピック・パラリンピックの歴史や意義などについて学習しているところ】

2 活動名（中心学習）：オリンピック・パラリンピックの調べ学習・発表会

(1) 日 時：令和2年11月

(2) 対象者：全校生徒 276 名

(3) 活動概要及び工夫点（保健体育の時間で実施）

学校の図書室や県立図書館、三豊市立図書館から本を借りて調べ学習を行った。1グループ3～4人で各クラス3～4グループに分かれて、オリンピック・パラリンピックの競技種目やルール、携わる人、聖火、目的など、グループごとにテーマを決めて調べた。調べたことをまとめて発表会を行った。発表の内容には、調べたことをクイズ形式になっているものがあり、発表を聞くだけでなく、聞く側が参加できる工夫がなされているグループもあった

(4) 活動の様子



【オリンピック・パラリンピックについて、テーマを決めて調べ学習をしているところ】



【調べたことを、テーマごとにまとめているところ】



【調べ学習のまとめを発表しているところ】

3 活動名（中心学習）：パラスポーツ（車椅子卓球）を体験しよう。

- (1) 日 時：令和2年11月～ 12月
- (2) 対象者：全校生徒 276名
- (3) 活動概要及び工夫点（保健体育の時間で実施）

12月10日の人権集会の講演会の講師に、パラリンピアンの皆見信博選手が決定したことを受けて、保健体育の授業で卓球を行った。ルールや技術を学びゲームを行った。その中で、パラリンピックの種目でもある車椅子での卓球を紹介し体験した。学校には競技用の車椅子がないので、パイプ椅子に座り、足を動かさないようにしてゲームを行った。競技用ではないが、保健室にある車椅子を借りて、車椅子に乗っての卓球も体験した。

(4) 活動の様子



【パイプ椅子に座って卓球をしているところ】



【車椅子卓球をしているところ】

4 活動名（中心学習）：パラリンピアン皆見信博選手に学ぶ。

- (1) 日 時：令和2年12月10日 14:30 ～ 15:30
- (2) 対象者：全校生徒 276名
- (3) 活動概要及び工夫点（人権集会の講演会で実施）

人権集会では、各クラスの人権宣言に対する取り組みの発表や、「障害者差別」や「障害者理解」をテーマにした生徒会役員の人権劇を行った。劇を見た後に生徒同士で意見交換をした。また、人権劇を講演会講師のパラリンピアン皆見信博選手に見ていただき、感想や皆見選手の意見を講演会の冒頭で話していただいた。講演会では、車椅子で生活することになった経緯や、車椅子卓球の選手となった経緯、日本代表として出場した国際大会やパラリンピックでの経験を話していただいた。「夢を持つことの大切さ」や「あきらめないこと」、「挑戦すること」を話していただき、生徒たちは感銘を受けていた。講演会の最後には「人生を楽しく生きて、悔いのない人生を送ってほしい」というメッセージを送っていただいた。講演会後には、各クラスの代表者と、卓球で交流を行い、ラリーをするだけでなく実技指導もしていただき、トップアスリートの技術の高さを間近で見て、肌で感じる事ができた。

(4) 活動の様子



【パラリンピアン・皆見信博選手の講演を聞いているところ】



【生徒の代表が皆見選手と卓球で交流しているところ】

5 活動名（事後学習）：オリンピック・パラリンピック学習のまとめをしよう。

- (1) 日 時：令和2年12月11日 ～ 21日
- (2) 対象者：全校生徒276名
- (3) 活動概要及び工夫点（保健体育の時間で実施）

皆見選手の講演会後の保健体育の授業で、事後アンケートと卓球の授業を実施した。アンケートの中の感想には、多くの生徒が「パラスポーツに興味を持つことができた」とか「オリンピックだけでなくパラリンピックも観戦したい」と書いていた。卓球の授業では、皆見選手に実技指導していただいたことを実践した。

Ⅲ 成果と課題

○ オリンピック・パラリンピック学習を行う前の事前アンケートでは、「オリンピック・パラリンピックに興味がある」と答えた生徒は4割から5割程度であったが、事後アンケートでは9割を超える生徒が「興味がある」と答えた。また、「オリンピック・パラリンピックにボランティアとして参加したい」という質問に対しても8割以上の生徒が「参加したい」と答えていた。体育理論や体育の授業だけでは、生徒の興味や関心をここまで高めることができなかつたと思われるが、皆見選手の講演を聞いたり、実技を見たりしたことで、パラスポーツへの関心を持つことや、障害者とともに生きる社会の構築への意欲に繋がった。

△ パラスポーツを体育の授業で行うために、教材研究を行ったが、知識不足な面があった。卓球だけでなく、様々なパラスポーツを生徒に経験させられるように、講習会を受けるなどして、スキルを高めなければならないと感じた。